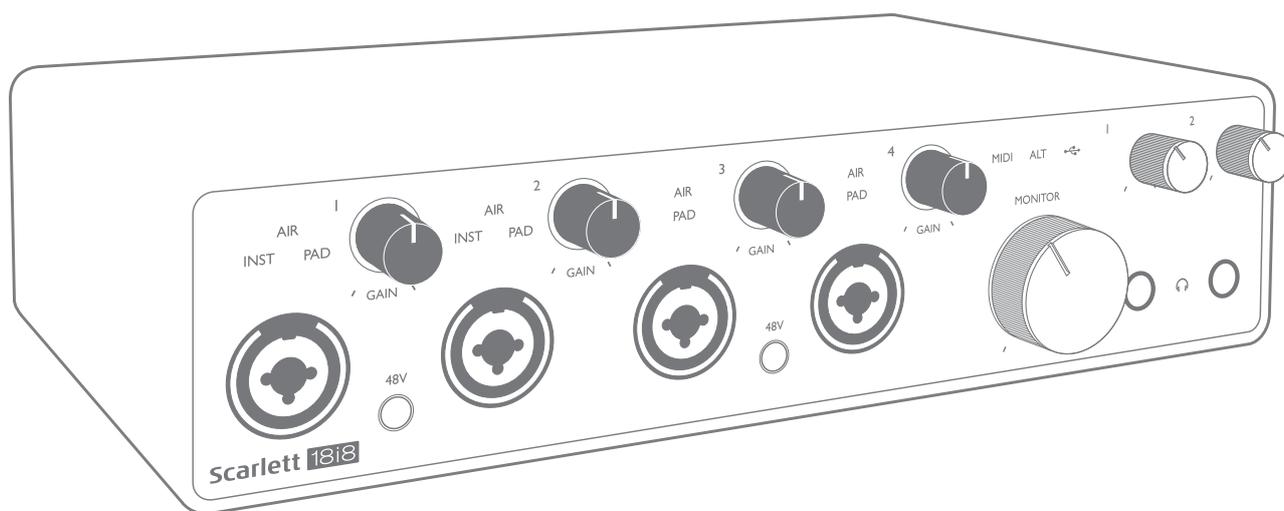


Scarlett 18i8

ユーザーガイド



目次

概要	3
はじめに	3
特徴	3
同梱品	4
システム要件	4
作業の開始	5
クイックスタートツール	5
Mac ユーザー専用の手順:	5
Windows 専用の手順:	7
すべてのユーザー用の手順:	9
手動による登録	9
ハードウェアの特徴	10
フロントパネル	10
リアパネル	12
Scarlett 18i8 の接続	13
電源	13
USB	13
DAW でのオーディオのセットアップ	14
ループバック入力	15
使用例	16
マイクおよび楽器の接続	16
低レンテンシーモニタリング	17
Scarlett 18i8 のラウドスピーカーへの接続	18
ADAT 接続の使用	20
Scarlett 18i8 のスタンドアロンミキサーとしての使用	21
FOCUSRITE CONTROL	22
仕様	25
性能仕様	25
物理的特性と電気的特性	27
トラブルシューティング	29
著作権表示と法定通知	29

概要

はじめに

この度は、第三世代 Scarlett 18i8 をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品は、Focusrite プロフェッショナル用オーディオインターフェイスファミリーの一つで、高品質の Focusrite アナログプリアンプが内蔵されています。本製品の付属ソフトウェアアプリケーションと一緒に使用することで、お使いのコンピューターとの間で高品質の音声の入出力ルーティングを行うためのコンパクトかつ非常に多用途のソリューションを実現できます。

この第三世代シリーズの Scarlett インターフェイスの開発においては、性能と機能の両方にさらなる改良を加えました。本装置全体のオーディオ仕様をアップグレードしてダイナミックレンジを拡大し、ノイズや歪みをさらに低減し、マイクプリアンプの入力レベルを向上しました。また、重要な強化点は、Focusrite の AIR 機能を搭載したことです。AIR を使用すると、プリアンプの周波数特性を Input 1 ~ 4 で個々に選択して微修正し、伝統的なトランスフォーマーベース ISA マイクプリアンプの音波特性をモデリングできます。音質の良いマイクで録音すると、ボーカルや多くの音響機器で最も必要とされる重要な中高周波数帯域 (中高音域) の透明性と明瞭性が向上します。第三世代 Scarlett インターフェイスは、macOS ではクラスコンプライアントです。つまり、接続するだけですぐに使用でき、Mac ユーザーの方であればドライバーをインストールする必要はありません。

第三世代の Scarlett インターフェイスは、Focusrite Control ソフトウェアと互換性があります。このため、ソフトウェアでさまざまなハードウェアの機能の制御、モニターミックスのセットアップおよびルーティングの構成を行うことができます。Mac および Windows プラットフォームのそれぞれに Focusrite Control インストーラーが用意されています。Windows 版のインストーラーには、ドライバーが含まれています。そのため、どちらの場合にも、Focusrite Control をインストールするだけで、起動して稼働させることができます。

このユーザーガイドでは、本製品の操作上の特徴を十分にご理解いただくために、ハードウェアについて詳細に説明しています。弊社では、コンピューターベースのレコーディングが初めての方も、既に経験がある方も、すべての方に本ユーザーガイドを最後までお読みいただくよう推奨しています。そうすることで、Scarlett 18i8 および付属のソフトウェアのすべての機能を完全に把握することができます。本ユーザーガイドの主なセクションに必要な情報が掲載されていない場合には、<https://support.focusrite.com/> をご覧ください。本サイトには、広範囲にわたって集められた一般的なテクニカルサポートのお問い合わせに対する回答が掲載されています。

特徴

Scarlett 18i8 オーディオインターフェイスは、マイクや楽器、ラインレベルの音声信号および ADAT や S/PDIF 形式のデジタルオーディオ信号を Mac OS または Windows の対応するバージョンが稼働しているコンピューターに接続するための手段を備えています。入力部の信号は、お使いのオーディオレコーディングソフトウェア/デジタルオーディオワークステーション (以下、本ユーザーガイド全体を通して「DAW」といいます) へ最大 24 ビット、192 kHz の解像度でルーティングできます。同様に、DAW のモニター出力または録音された出力信号は、本製品の物理出力部に送られるように構成できます。

出力部は、アンプやスピーカー、パワードモニター、ヘッドフォン、オーディオミキサーまたはその他の使用したいアナログ / デジタルオーディオ機器に接続することができます。Scarlett 18i8 のすべての入出力は、レコーディングおよび再生の際にお使いの DAW との間で直接ルーティングされますが、固有のニーズに厳密に合わせて DAW 内でルーティングを構成することも可能です。

また、付属ソフトウェアアプリケーションの Focusrite Control によって、追加のルーティングおよびモニタリングのオプションのほか、サンプルレートやクロックソースなどのハードウェアのグローバル設定の制御機能を利用できます。

第三世代 18i8 で導入された全く新しい機能は ALT 機能で、セカンダリモニタースピーカーとの切り替えを実現します。この機能を使用することで、二組目のモニターラウドスピーカーを Line Output 3 および 4 に接続し、二組のスピーカーを切り替えて、異なるスピーカーセットに作成したミックスを参照させることができます。ALT 機能は、Focusrite Control から設定および選択できます。

Scarlett 18i8 のすべての入力、レコーディングの際に DAW ソフトウェアに直接ルーティングされますが、FocusriteControl を使用することで、これらの信号を機器内で内部的にその出力部へとルーティングすることもできます。これにより、必要に応じて、お使いの DAW に信号が到達する前に、超低レイテンシーで音声信号をモニタリングできます。

また、Scarlett 18i8 は、MIDI データを送受信するためのコネクタも備えています。このコネクタは、お使いのコンピューターの USB ポートと、システム内にある他の MIDI 機器との MIDI インターフェイスとして使用できます。

同梱品

Scarlett 18i8 には、以下の付属品が同梱されています：

- 外部 12 V DC 主電源装置 (PSU)
- USB ケーブル、Type 'A' ~ Type 'C'
- 「はじめにお読みください」情報 (梱包箱のふたの内側に記載)
- 重要な安全情報

システム要件

お使いのコンピューターのオペレーティングシステム (OS) が、Scarlett 18i8 に対応しているかを確認する最も簡単な方法は、弊社サイト <https://customer.focusrite.com/downloads/os> に掲載されているオンライン OS チェッカーを使用することです。時間の経過に伴い、OS の新バージョンがリリースされるため、弊社の Help Centre サイト <https://support.focusrite.com/hc/en-gb> を検索することで、継続的に互換性情報の更新の有無を確認することができます。

作業の開始

Scarlett インターフェイスの第三世代には、Scarlett クイックスタートツールを使用した新しい、より迅速な起動方法が導入されています。必要な操作は、付録の主電源アダプターを使用して Scarlett 18i8 の電源を入れてから、その USB ポートをお使いのコンピューターの USB ポートに接続するだけです。接続されると、お使いの PC または Mac に本装置が認識され、クイックスタートツールにより、操作方法の案内が表示されます。

重要: Scarlett 18i8 には、USB 2.0 Type C ポートが 1 つ搭載 (リヤパネル上) されています。付属の USB ケーブルを使用してこのポートとコンピューターを接続します。Scarlett 18i8 は、USB 2.0 機器です。このため、その USB を接続するには、お使いのコンピューターに USB 2.0+ に対応したポートが必要です。

コンピューターは、最初は Scarlett をマスタストレージデバイス (MSD) として扱います。このため、最初の接続時には Scarlett は、「MSD モード」になります。

クイックスタートツール

弊社は、Scarlett 18i8 の登録手続きをできる限り簡単なものにするために尽力しています。その手順は、おそらく一目瞭然かと思いますが、Mac または PC 上の表示をご確認いただけるように各ステップを以下に記載します。

Mac ユーザー専用の手順:

お使いの Mac に Scarlett 18i8 を接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。



そのアイコンをダブルクリックして、以下に示す Finder ウィンドウを開きます:



“Click Here to Get Started.url” アイコンをダブルクリックします。これを行うと、Focusrite の Web サイトにリダイレクトされます。このサイトで、機器の登録を行うことを推奨します:

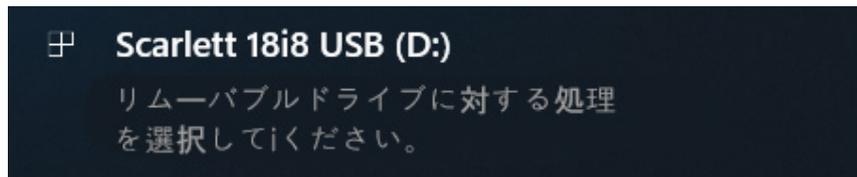


“Let's get you started” をクリックします。部分的にあらかじめ自動入力されたフォームが表示されます。フォームを送信すると、ダウンロード領域に直接移動して Scarlett 用のソフトウェアを取得するか、または手順に従ってセットアップを行うかを選択するように促すオプションが表示されます。Focusrite Control ソフトウェアをインストールして、インターフェイスのセットアップおよび設定を完了すると、Scarlett は MSD モードから切り替わり、お使いのコンピューターに接続しても、マストレージデバイスとして表示されなくなります。

お使いの OS で、コンピューターのデフォルトのオーディオ入出力が自動的に Scarlett 18i8 に切り替わります。これを確認するには、**System Preferences > Sound** に移動し、入出力が **Scarlett 18i8 USB** に設定されていることを確認します。Mac のセットアップオプションに関する詳細については、**Applications > Utilities > Audio MIDI Setup** の順に選択して表示し、参照してください。

Windows 専用の手順:

お使いの PC に Scarlett 18i8 を接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。

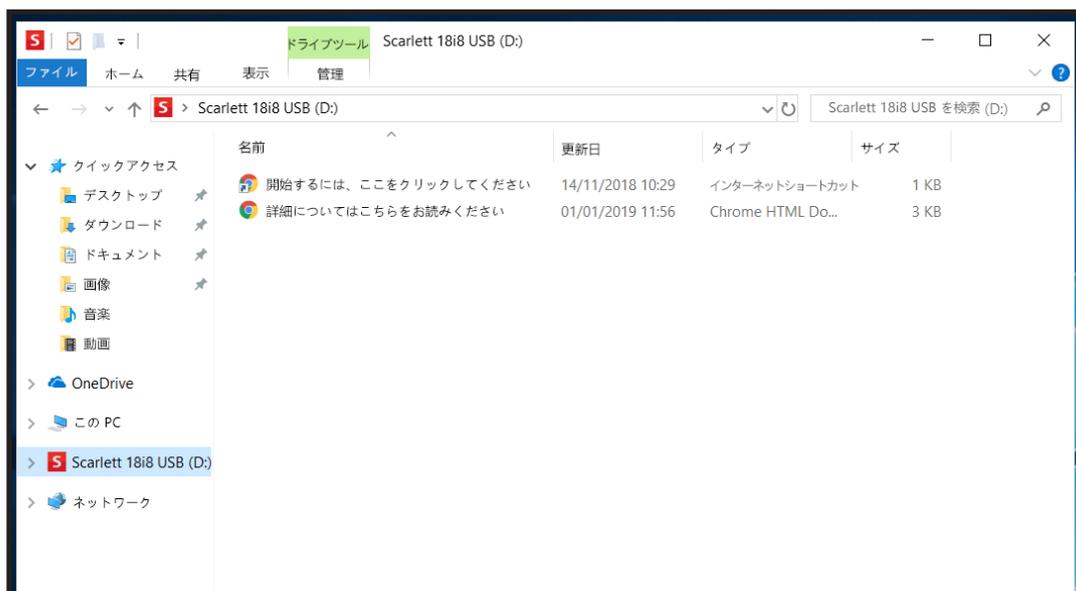


(お使いの PC への他の機器の接続状況によっては、ドライブの文字が D 以外である場合があります)

ポップアップメッセージをダブルクリックして、以下に示すダイアログボックスを開きます:



“Open folder to view files” をダブルクリックします。これを行うと、以下のような Explorer ウィンドウが開きます:



“Click Here to Get Started” をダブルクリックします。

これを行うと、Focusrite の Web サイトにリダイレクトされます。このサイトで、機器の登録を行うことを推奨します:



“Let's get you started” をクリックします。部分的にあらかじめ自動入力されたフォームが表示されます。フォームを送信すると、そのままダウンロードサイトに移動して Scarlett 用のソフトウェアを取得するか、手順に従ってセットアップを行うかを選択するように促すオプションが表示されます。Focusrite Control ソフトウェアをインストールして、インターフェイスのセットアップおよび設定を完了すると、Scarlett は MSD モードから切り替わり、お使いのコンピューターに接続しても、マストレージデバイスとして表示されなくなります。

お使いの OS で、コンピューターのデフォルトのオーディオ入出力が Scarlett 18i8 に自動的に切り替わります。これを確認するには、タスクバーの Sound アイコンを右クリックし、**Sound Settings** を選択して、Scarlett を入出力デバイスとして設定します。

すべてのユーザー用の手順:

2 つ目のファイル “More Info & FAQs” もこの最初のセットアッププロセス時に入手できます。このファイルには、この手順で問題が発生した場合に役に立つ Focusrite クイックスタートツールに関する追加情報がいくつか含まれています。

登録が完了すると、以下のリソースにすぐにアクセスできます:

- Focusrite Control (Mac 版と Windows 版があります) - 以下の注記を参照してください。
- 多言語のユーザーガイド

アカウントページ内に、以下のバンドルソフトウェアのライセンスコードとリンクが提供されます。

- Pro Tools | First
- Ableton Live Lite
- Focusrite Red 2 & 3 Plug-in Suite
- Softube Time and Tone bundle
- XLN Audio Addictive Keys
- Plug-in Collective Offers

注記: Focusrite Control をインストールすると、購入した機器用の適切なドライバーも自動的にインストールされます。Focusrite Control は、いつでもダウンロードできます。登録しなくても入手可能です。以下の「手動による登録」を参照してください。

手動による登録

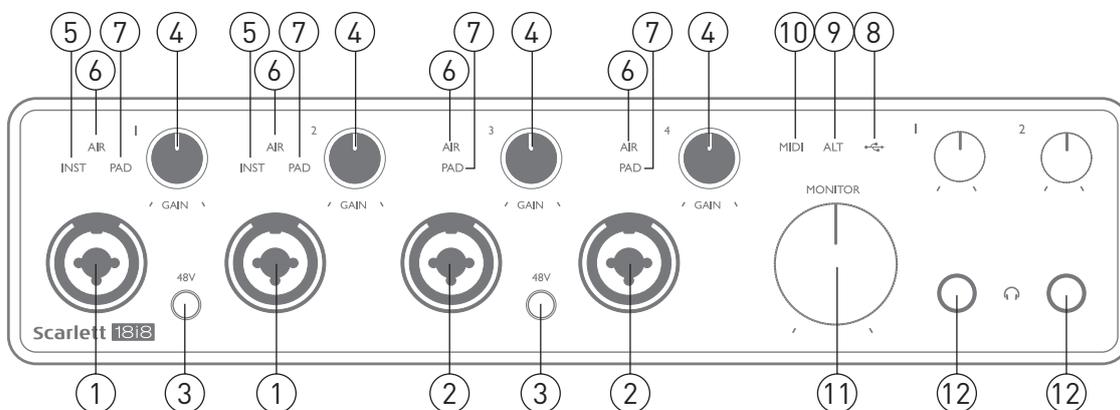
Scarlett 18i8 を後で登録することを選択した場合、登録は <https://customer.focusrite.com/user/register> で行うことができます。シリアル番号を手動で入力する必要があります。この番号は、インターフェイス本体の基部にあります。また、梱包箱の側面のバーコードラベルにも記載されています。

弊社では、Focusrite Control アプリケーションをダウンロードして、インストールすることを推奨しています。これを行うことで、MSD モードを無効にして、本インターフェイスの性能を最大限に引き出すことができます。MSD モード時には、本インターフェイスは最大 48 kHz のサンプルレートで機能します。お使いのコンピューターに Focusrite Control をインストールすると、最大 192 kHz のサンプルレートで作業できます。Focusrite Control をすぐにダウンロードしてインストールしないことを選択する場合には、<https://customer.focusrite.com/support/downloads> からいつでもダウンロードできます。

最初に登録せずに Scarlett 18i8 を強制的に MSD モードから移行させるには、USB ケーブルの接続を外してから再接続しながら、Input 1 および 2 の **48V** ボタンを押したままにし、次に同じ **48V** ボタンをさらに 5 秒間押し続けます。これにより、Scarlett 18i8 はその機能性をフルに発揮できます。この操作を行った後に、Scarlett 18i8 を登録する場合には、上述の手順に従って手動で登録する必要がありますのでご注意ください。

ハードウェアの特徴

フロントパネル

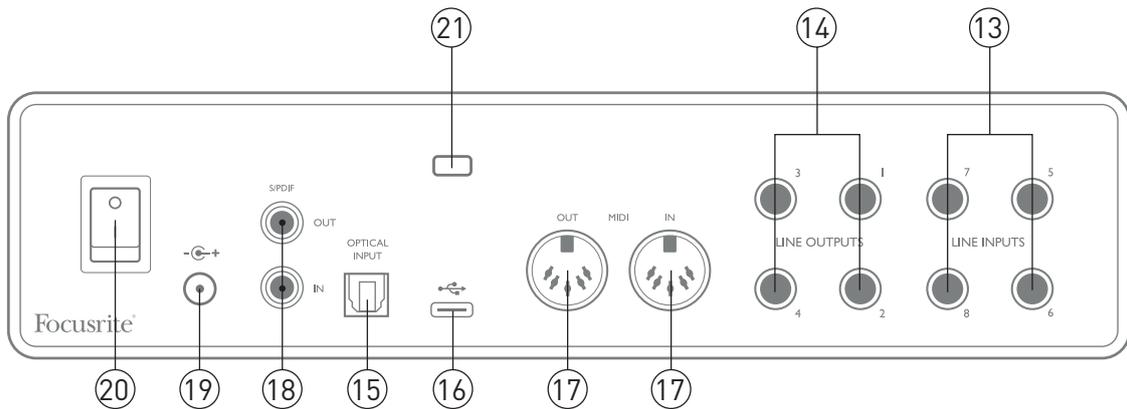


フロントパネルには、マイク信号、ライン信号および楽器信号用の入力コネクタ、入力ゲインやモニタリングの調整つまみ、ヘッドフォンソケットがあります。

1. Input 1 および 2 – 「コンボ」タイプ入力ソケット - マイク、楽器 (例: ギター) またはラインレベル信号をここから接続します。コンボソケットは、XLR ジャックと 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックの両方に対応しています。マイクは、通常 XLR プラグを使用して接続します。楽器信号およびラインレベル信号は、TR または TRS のいずれかのタイプの 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックプラグを使用して接続する必要があります。プリアンプのゲインは、XLR プラグが差し込まれるとマイクに適したものとなり、ジャックプラグが差し込まれるとさらに高いレベルの信号に適したものになります。XLR プラグを使用してマイク以外のもの (例: サウンド モジュールや FX 機器の出力) を接続しないでください。その信号レベルによって、プリアンプのオーバーロードが発生し、歪みが生じたり、ファンタム電源が有効になっている場合は、装置が損傷することがあります。
2. Input 3 & 4 – XLR コンボタイプの入力ソケット – [1] と同じ。ただし、マイクまたはラインレベルの信号のみを接続することができます。楽器を直接接続する際は、Input 1 と 2 を使用します。
3. **48V** – 2つのスイッチを使用して、2組 (1 & 2、3 & 4) のコンボコネクタの XLR 接点 (マイク入力) でファンタム電源を有効にします。ファンタム電源が選択されている場合、48 V インジケータが点灯します。
4. **GAIN 1 ~ GAIN 4** – Input 1 ~ 4 の信号の入力ゲインをそれぞれ調整します。ゲイン調整つまみには、信号レベルの確認に使用する 3 色の同心円状の LED リングがあります。緑色は、入力レベルが最低 -24 dBFS (「信号あり」) であることを示します。信号レベルが -6 dBFS になると、リングが琥珀色に変わり、信号がクリッピングに近づいていることを通知し、最終的に 0 dBFS (デジタルクリッピング) に達すると赤色になります。
5. **INST** – Input 1 および 2 のジャック接点の入力構成は、Focusrite Control ソフトウェアで選択することができます。INST が選択されると、赤い LED が点灯します。INST が選択されている場合、ゲインレンジおよび入力インピーダンスが (LINE に対して) 変更され、入力はアンバランスになります。これにより、楽器の直接接続 (通常は 2 極 (TS) ジャックプラグによる) 用に最適化されます。INST がオフの場合、入力部は、ラインレベル信号の接続に適しています。ラインレベル信号は、3 極 (TRS) ジャックによるバランスまたは 2 極 (TS) ジャックによるアンバランスのいずれかの形態で接続することができます。

6. **AIR** – 4 つの黄色の LED で、Input 1 ~ 4 に AIR モードが選択されていることを示します。Focusrite Control から選択して AIR モードを使用すると、入力段の周波数特性を修正し、伝統的なトランスフォーマーベースの Focusrite ISA マイクプリアンプをモデリングできます。
7. **PAD** – 4 つの緑色の LED。Focusrite Control から Input 1 ~ 4 に PAD が選択されると点灯します。PAD は、お使いの DAW に送られる信号のレベルを 10 dB 低減します。入力音源の信号レベルが特に高い場合に使用します。
8.  **USB LED** – 緑色の LED。本装置が接続先のコンピューターによって認識されている場合に点灯します。
9. **ALT** – Focusrite Control で **Speaker Switching** がアクティブ化されると、メインモニターミックスの進路が **LINE Output 1** および **2** から **LINE Output 3** および **4** に変わります。一組のセカンダリモニタースピーカーを **LINE Output 3** および **4** に接続し、**ALT** を選択してメインモニターとセカンダリモニターのペアを切り替えます。選択すると、'ALT' が緑色に点灯します。この機能は、Focusrite Control からでも選択できます。
10. **MIDI LED** – **MIDI IN** ポートで MIDI データを受信すると緑色の LED が点灯します。
11. **MONITOR** – メインモニターの出カレベル調整つまみ – 通常はリヤパネルの Output 1 および 2 の出カレベルを設定しますが、ALT モード [9] の選択に従って変わります。また Focusrite Control で Hardware Control に割り当てられている他の出力のレベルも調整できます。
12.  - 1 つまたは 2 つのステレオヘッドフォンをヘッドフォンの音量調整つまみ 1 および 2 の下の 2 つの 1/4 インチ (6.25 mm) TRS ジャックソケットに接続します。ヘッドフォン出力は、Focusrite Control で現在アナログ出力 5 と 6 および 7 と 8 に (ステレオペアとして) ルーティングされている信号を常に伝送します。

リアパネル



13. **LINE Input 5 ~ 8** – 入力は、1/4 インチ (6.35 mm) ジャックソケットのバランス入力です。ラインレベル音源を追加する際は、1/4 インチ TRS (バランス) または TS (アンバランス) ジャックプラグのいずれかを使用してここに接続します。
14. **LINE OUTPUT 1 ~ 4** – 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックソケットの 4 つのバランスアナログライン出力。バランス接続には TRS ジャック、アンバランス接続には TS ジャックを使用します。出力 1 および 2 は通常、プライマリモニタリングシステムの駆動に使用されます。ただし、これらの出力の信号は、Focusrite Control で設定することが可能です。出力 3 および 4 は一般的に代替スピーカー (すなわち、ミッドフィールド、ニアフィールドなど) の駆動、またはアウトボード (外付け) FX プロセッサの駆動に使用されます。
15. **OPTICAL INPUT** – 44.1/48 kHz サンプルレートの ADAT フォーマットのデジタルオーディオのチャンネルを 8 つ、88.2/96 kHz サンプルレートのチャンネルを 4 つ伝送できる TOSLINK コネクタ。これらは、Scarlett 18i8 への追加の入力 (13 ~ 20) となります。また、オプティカル S/PDIF 出力を使用して装置を接続する必要がある場合には、オプティカル入力は S/PDIF 入力としても使用できます。オプティカル入力は、176.4/192 kHz のサンプルレートが使用される場合には無効となります。
16.  USB 2.0 ポート – Type C コネクタ。付属のケーブルで Scarlett 18i8 をお使いのコンピューターに接続します。
17. **MIDI IN** および **MIDI OUT** – 外部 MIDI 機器の接続用の標準 5 ピン DIN ソケット。Scarlett 18i8 は、MIDI インターフェイスとして機能し、お使いのコンピューターに入出力する MIDI データを他の MIDI 機器に配信することを可能にします。
18. **SPDIF IN** および **OUT** – 2 つのチャンネルのデジタルオーディオ信号を S/PDIF フォーマットで Scarlett 18i8 に入出力する 2 つのフォノ (RCA) ソケット。他のすべての入出力と同様に、これらのコネクタの信号は Focusrite Control でルーティングできます。
19. 外部 DC 電源入力 – 本製品に付属する別の AC アダプター (PSU) を介して Scarlett 18i8 に電源を提供します。Scarlett 18i8 は、ホストコンピューターから USB ポートを介して電源供給を受けることはできませんので、ご注意ください。
20. 電源オン/オフスイッチ。
21. **K** (ケンジントンセキュリティスロット) – 必要に応じて、お使いの Scarlett 18i8 を適切な構造物に固定し、セキュリティ対策を施します。

Scarlett 18i8 の接続

電源

Scarlett 18i8 は、12 V DC、1.2 A 主電源アダプターから電源供給する必要があります。適切なアダプターが本製品に付属しています。

重要: 付属の主電源アダプターのみを使用することを強く推奨します。他のアダプターを使用した場合、製品が回復不能な損傷を受け、さらに保証も無効になってしまう恐れがあります。

USB

USB ポートタイプ: Scarlett 18i8 には、Type C USB 2.0 ポートを 1 つ搭載されています。ソフトウェアのインストールが完了したら、Scarlett 18i8 をお使いのコンピューターに接続します。そのコンピューターに Type A USB ポートが搭載されている場合は、本製品に付属している Type A -Type C 変換ケーブルを使用することを推奨します。コンピューターに Type C USB が搭載されている場合は、コンピューター供給業者から Type C - Type C 変換ケーブルをお買い求めください。

USB 規格: Scarlett 18i8 は、USB 2.0 機器であるため、その USB を接続するには、お使いのコンピューターに USB 2.0 に準拠したポートが必要です。USB 1.0/1.1 ポートでは正しく動作しません。ただし、一般的に USB 3.0 ポートは USB 2.0 機器に対応しています。

USB ケーブルを接続したら、リアパネルの電源スイッチを使用して Scarlett 18i8 の電源をオンにします。

DAW でのオーディオのセットアップ

Scarlett 18i8 は、ASIO または WDM をサポートする Windows ベースの DAW にも、Core Audio を使用する Mac ベースの DAW にも対応しています。5 ページに記載の「作業の開始」手順に従って操作を行うと、お使いの DAW で Scarlett 18i8 の使用を開始できます。DAW アプリケーションがお使いのコンピューターにインストールされていない場合でも、製品の使用を開始できるように、ProTools | First および Ableton Live Lite が同梱されています。これらのソフトウェアは、購入した Scarlett 18i8 を登録すると、利用可能になります。いずれかの DAW のインストールで支援が必要な場合には、弊社サイト <http://focusrite.com/get-started> の Getting Started ページをご覧ください。作業開始のための各種ビデオを視聴できます。

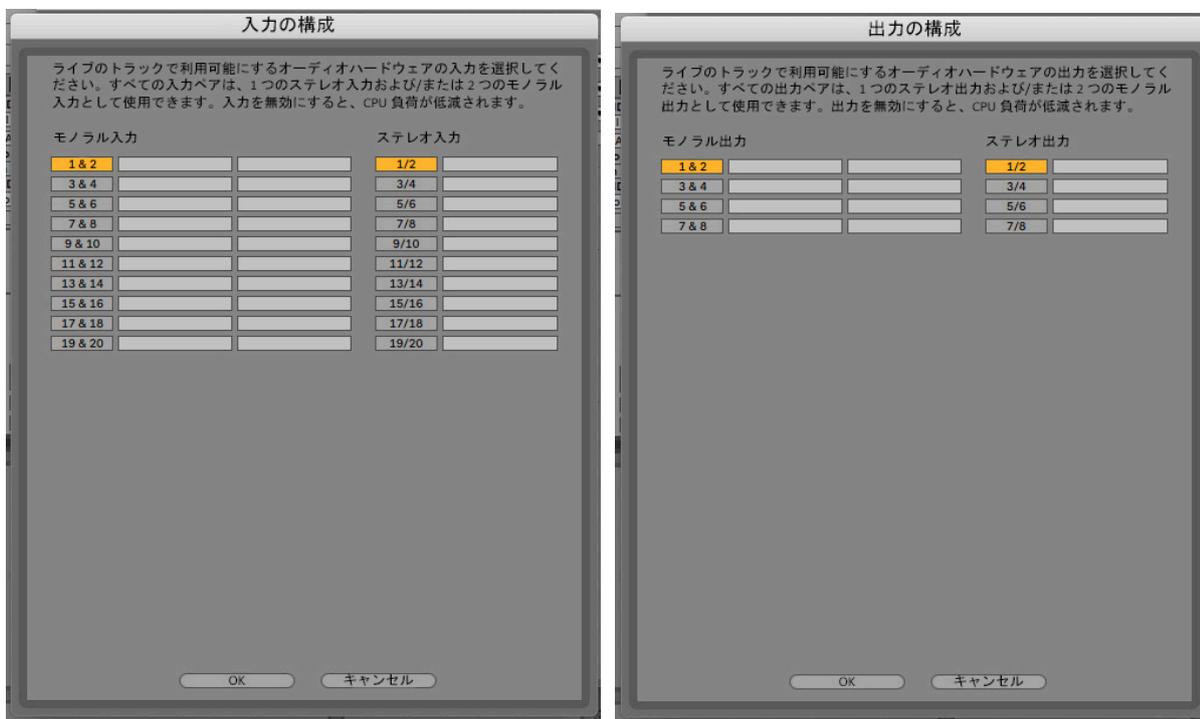
Ableton Live Lite および ProTools | First の操作手順は、本ユーザーガイドの範囲外になりますが、どちらのアプリケーションにも完全なヘルプファイルが付属しています。また、操作説明書は、www.avid.com および www.ableton.com でも、それぞれ入手できます。

注意: お使いの DAW で Scarlett 18i8 がデフォルトの I/O 機器として自動的に選択されない場合があります。その場合は、お使いの DAW の **Audio Setup*** ページで **Focusrite USB ASIO** をドライバーとして手動で選択する必要があります。ASIO / Core Audio ドライバーを選択する場所がわからない場合は、お使いの DAW のマニュアル (またはヘルプファイル) を参照してください。以下の例に、Ableton Live Lite の **Preferences** パネル (図は Windows 版) を示します。



*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

Scarlett 18i8 をお使いの DAW の優先オーディオ機器*として設定すると、18 の入力と 8 の出力すべてが DAW の環境設定のオーディオ I/O 領域に表示されます (Ableton Live Lite では、同時に使用できるモノラル入力チャンネルは最大 4 つまで、モノラル出力は最大 4 つまでに制限されています)。お使いの DAW によっては、使用する前に特定の入力または出力を有効にする必要があります。以下の 2 つの例に、Ableton Live Lite の **Input Config** および **Output Config** ページで有効になっている 2 つの入力と 2 つの出力を示します。



*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

ループバック入力

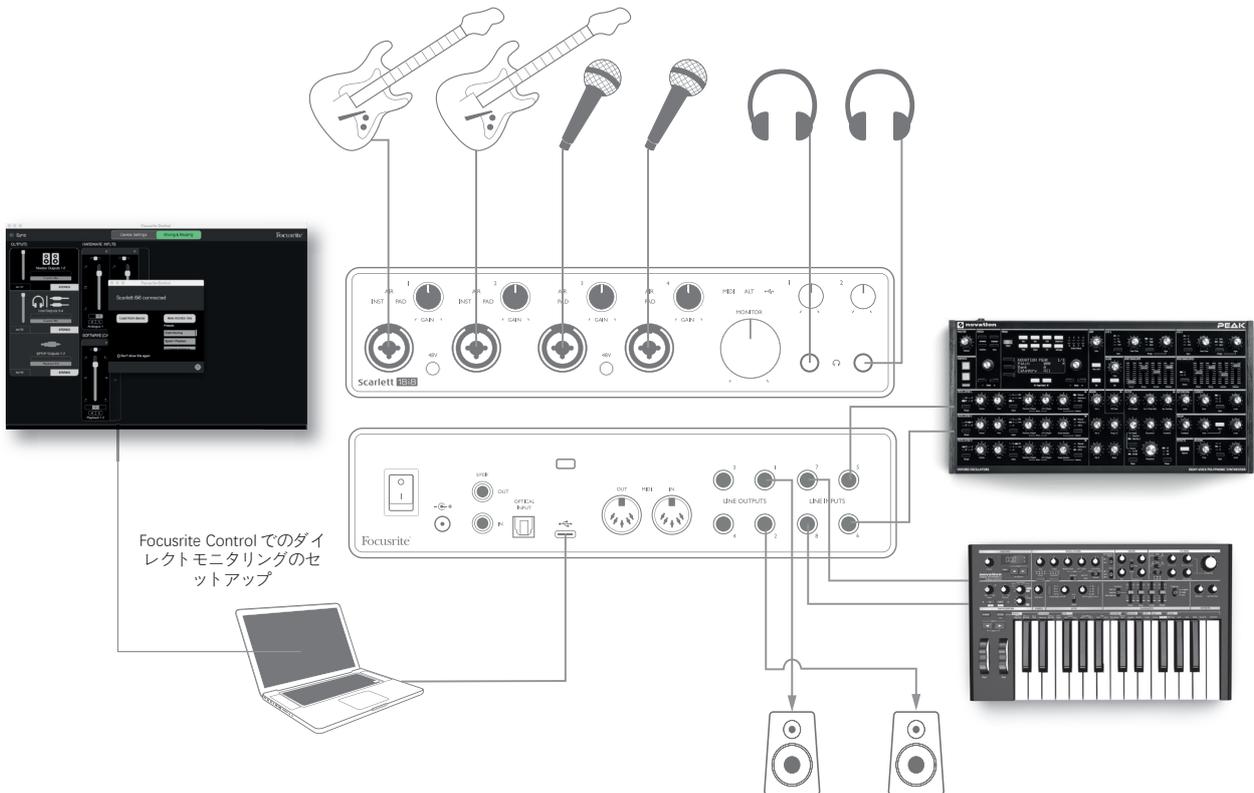
お使いの DAW の I/O Preferences の Input Config ページには、追加の 2 つの入力、Input 11 & 12 がリストされています。これらは、ソフトウェア内の仮想「ループバック」入力であり、追加の物理入力ではありません。これらは、お使いのコンピューター内の音源 (例: Web ブラウザ) からの DAW トラックの録音に使用できます。Focusrite Control には、**Loopback 1-2** ミックスタブがあり、このタブでどの入力を録音するかを選択できます。

ループバック入力の使用方法に関する詳細については、Focusrite Control ユーザーガイドを参照してください。

使用例

Scarlett 18i8 は、レコーディングやモニタリングの用途/適用分野がさまざまに異なる場合に良い選択肢です。一般的な構成をいくつか以下に示します。

マイクおよび楽器の接続



このセットアップは、Mac または PC 上の DAW ソフトウェアで演奏者のグループをレコーディングするための構成を示しています。この場合、Input 1 と 2 は 2 つのギターに使用し、Input 3 と 4 はボーカルに使用します。2 つのステレオキーボードは、リアパネルの Input 5 ~ 8 に接続します。レコーディング中、DAW の再生はラウドスピーカー (別の室内にある場合 - その他の場合はヘッドフォンを使用) でモニタリングでき、Focusrite Control で各ボーカリストに専用のヘッドフォンミックス提供するように構成することができます。このヘッドフォンミックスは、ボーカリスト自身、他のシンガー、ギターおよびキーボード、さらに、既にレコーディングされているその他の DAWトラックなど、どのようなミックスからでも構成できます。

フロントパネルの入力ソケットは、XLR コンボタイプで、XLR オスコネクタ (おそらく、マイクケーブルの端に付いています) または 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックプラグのいずれかを使用できます。Scarlett 18i8 は、「Mic/line」スイッチを備えていませんのでご注意ください。Focusrite プリアンプ段は、入力に XLR を接続すると、自動的にマイク用に、またジャックプラグに接続すると自動的にラインまたは楽器用に構成されます。楽器 (ギターなど) を通常の 2 極ギタージャックから接続する場合、Focusrite Control (**Device Settings** ページ) で **INST** を選択します。外付けオーディオミキサーのバランス出力などのラインレベルの音源を 3 極 (TRS) ジャックから接続する場合には、**INST** スwitch を OFF に設定します。コンボコネクタは、両方のタイプのジャックプラグに対応しています。

コンデンサー (静電型) マイクを使用する場合は、**48V** ボタンを押してマイクにファンタム電源を供給します(この例では、Input 3 および 4 の **48V** ボタンです)。ほとんどのその他のタイプの現代のマイク (ダイナミックマイクやリボンマイク) は、不用意なファントム電源の印加によって損傷することはありませんが、一部の旧式のマイクは損傷する場合があります。疑いがある場合は、お使いのマイクの仕様を確認してください。

Scarlett 18i8 の Input 1 ~ 4 の各チャンネルには、PAD 機能が搭載されています。Focusrite Control から選択すると (アクティブになると **PAD** が緑色に点灯します)、お使いの DAW に送られる信号レベルは 10 dB 低減します。音源の出力レベルが特に高く、最小ゲインであっても、クリッピングまたはゲイン Halo が赤に変化している場合に有効な機能です。

低レイテンシーモニタリング

デジタルオーディオシステムに関連して、「レイテンシー」という用語を耳にすることがよくあります。前述のようなシンプルな DAW レコーディングアプリケーションの場合、レイテンシーとは、入力信号がお使いのコンピューターおよびオーディオソフトウェアを通過し、オーディオインターフェイス経由で再度戻ってくるまでにかかる時間です。レイテンシーは、シンプルなレコーディング環境では問題になりませんが、特定の状況では、入力信号をモニタリングしながらレコーディングしたい演奏者にとって障害となる可能性があります。これは、お使いの DAW のレコーディングバッファのサイズを増大する必要がある場合に当てはまる場合があります。バッファサイズの増大は、特に大規模なプロジェクトで多数の DAW トラック、ソフトウェアインストゥルメントおよび FX プラグインを使用してオーバーダビングを行う際に必要となることがあります。バッファ設定が低すぎる場合の一般的な症状には、オーディオグリッチ (クリック音およびポップ音などのノイズ) の発生や DAW 内の CPU オーバーヘッドの異常な増大などがあります (ほとんどの DAW には CPU 負荷モニタリング機能が搭載されています)。ほとんどの DAW では、Audio Preference 管理ページでバッファサイズを調整できます。

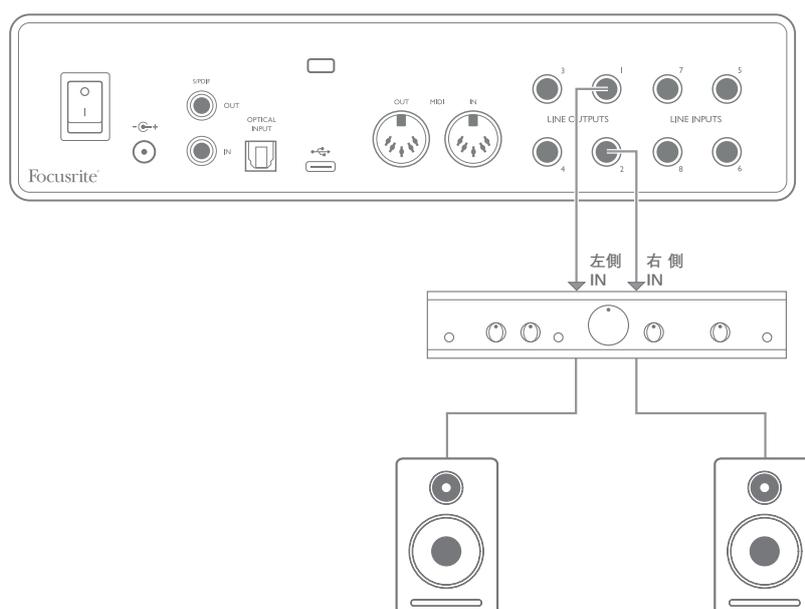
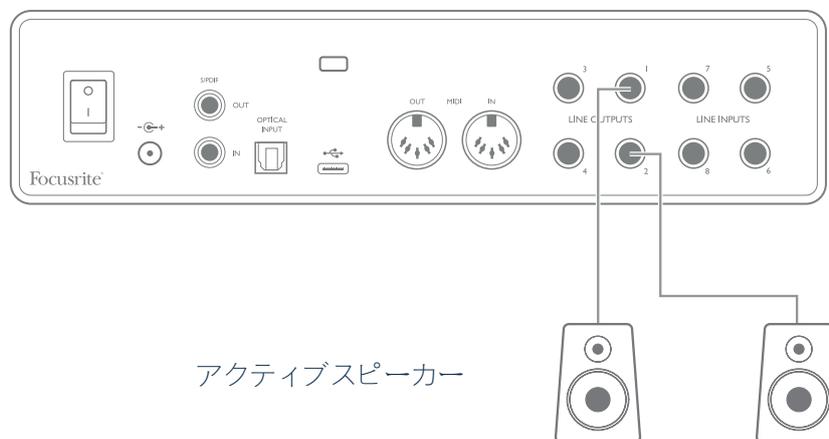
Scarlett 18i8 を Focusrite Control と一緒に使用することで、ゼロレイテンシーモニタリングが可能になり、この問題を解決できます。Scarlett 18i8 のヘッドフォン出力に入力信号を直接ルーティングすることができます。これによって演奏者は、コンピューターの再生と共にゼロレイテンシーで、つまりリアルタイムで自身の演奏を聞くことができます。コンピューターへの入力信号が、この設定によって影響を受けることは決してありません。ただし、ソフトウェアプラグインによるライブインストゥルメントに何等かのエフェクトを加え、その FX はレコーディングでは存在していても、この場合はヘッドフォンからは聞こえないためご注意ください。

ダイレクトモニタリングを使用するときには、お使いのレコーディングソフトウェアで、その入力 (現在レコーディング中の音声) を出力にルーティングするように設定されていないことを確認してください。そのように設定されている場合、一つの信号がエコーのように遅れて聞こえるため、演奏者には音声は「2回」聞こえてしまいます。

*一般的な名称。この用語は、DAWによって若干異なることがあります

Scarlett 18i8 のラウドスピーカーへの接続

リアパネル上の 1/4 インチ **LINE OUTPUT 1** および **2** ジャックは通常、モニタリングスピーカーに音声を送信するために使用します。電源内蔵式のモニターには、内蔵アンプが音量調節装置とともに組み込まれているため、直接接続することができます。パッシブラウドスピーカーには、別途ステレオアンプが必要です。この場合、リアパネルの出力部をアンプの入力部に接続する必要があります。



すべてのライン出力コネクタは、3 極 (TRS) 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックソケットで、電氣的にバランスがとれて (平衡して) います。一般的な民生用 (Hi-Fi) アンプや小電力モニターはおそらく、フォノ (RCA) ソケットまたはコンピュータに直接接続するように設計された 3.5 mm 3 極ジャックプラグのいずれかにアンバランス入力を備えています。いずれの場合にも、1 端にジャックプラグのついた適切な接続ケーブルを使用します。

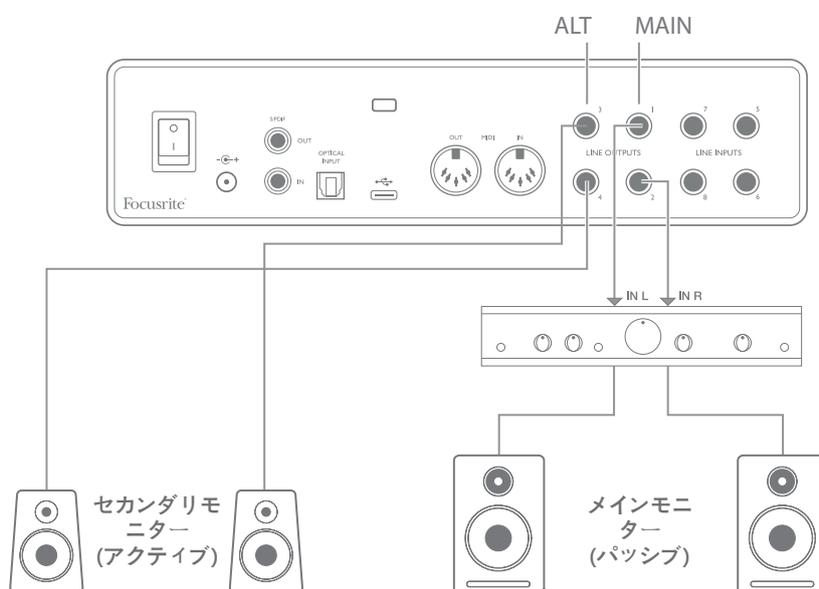
プロフェッショナル用アクティブモニターおよびプロフェッショナル用パワーアンプには、一般的にバランス入力が搭載されています。

LINE OUTPUT 1 ~ 4 には、お使いのスピーカー (および使用されている場合にはアンプ) が接続され、アクティブになっているときに Scarlett 18i8 の電源が投入された場合に、そのスピーカーを保護する「アンチサンプ」回路が組み込まれています。

注記: マイクと同時にラウドスピーカーがアクティブになっている場合、オーディオフィードバックループが生じるおそれがあります。レコーディング中は必ずモニタリング用のラウドスピーカーをミュート (またはオフ) にし、オーバーダビング中はヘッドフォンを使用することを推奨します。

スピーカーの切り替え (メイン/ALT)

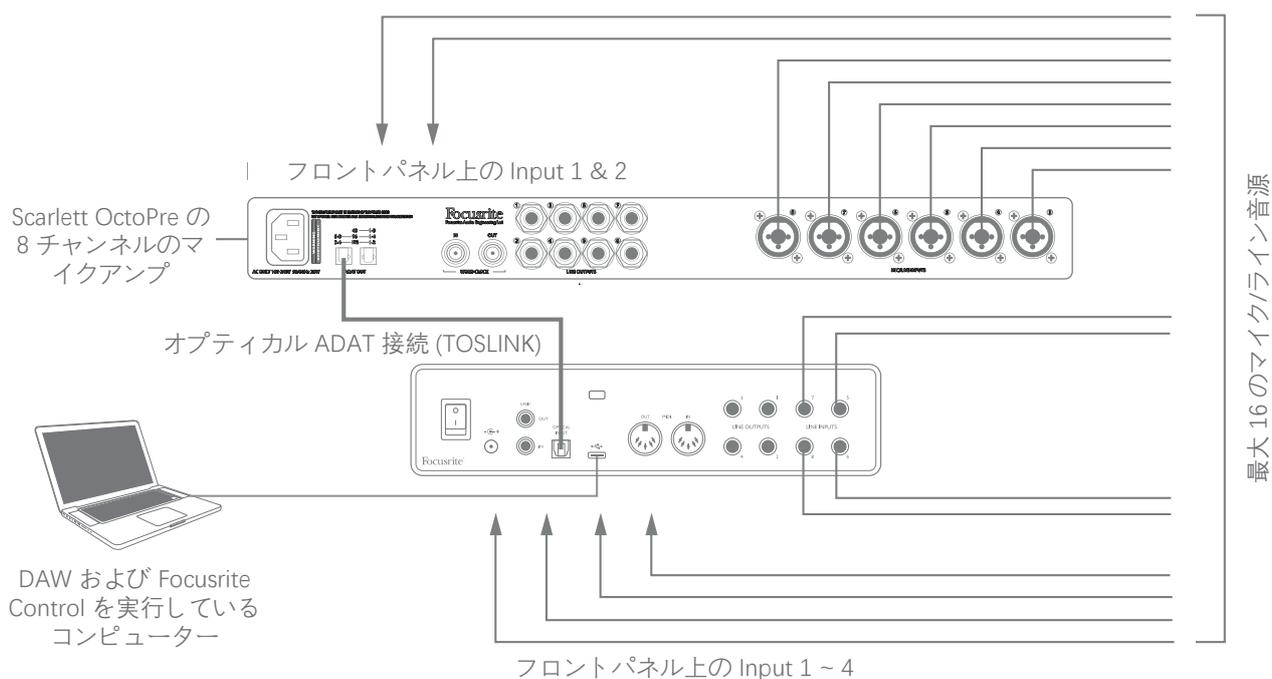
18i8 の ALT 機能を使用すると、二組目のモニタースピーカーを非常に簡単に追加できます。二組目を **LINE Output 3** および **4** に接続するだけです。Focusrite Control で **Speaker Switching** を有効にすると、画面上の **MAIN** ボタンと **ALT** ボタンをクリックすることにより、メインモニターとセカンダリモニターのペアと切り替えできるようになります。ALT がアクティブになっているときは、メインミックス出力は、**LINE OUTPUT 1** および **2** ではなく、**3** にと **4** に送られ、これを確認するために緑色のALT LED が点灯します。



MAIN と **ALT** 間で切り替えると、使用しない方のスピーカーの Line Output 部はミュートになります。**Speaker Switching** が無効になっている場合、Line Output 1 ~ 4 は、最初はすべてミュートになっています (安全のため)。Focusrite Control で、該当する出力のミュートを解除して使用する必要があります。スピーカー切り替えの詳細については、Focusrite Control マニュアルを参照してください。

ADAT 接続の使用

Scarlett 18i8 には、8 つのアナログ入力に加え、44.1/48 kHz のサンプルレートでは 8 つのオーディオ入力を、88.2/96 kHz のサンプルレートでは 4 つのオーディオ入力を追加で使用できるオプティカル ADAT 入力ポートが搭載されています。(オプティカル ADAT 入力ポートは、176.4/192 kHz のサンプルレートには対応していませんのでご注意ください。)Focusrite Scarlett OctoPre などの ADAT 出力を装備した 8 チャンネルマイクプリアンプを別途使用することで、シンプルかつ優れた方法で、Scarlett 18i8 の入力機能を拡張することができます。



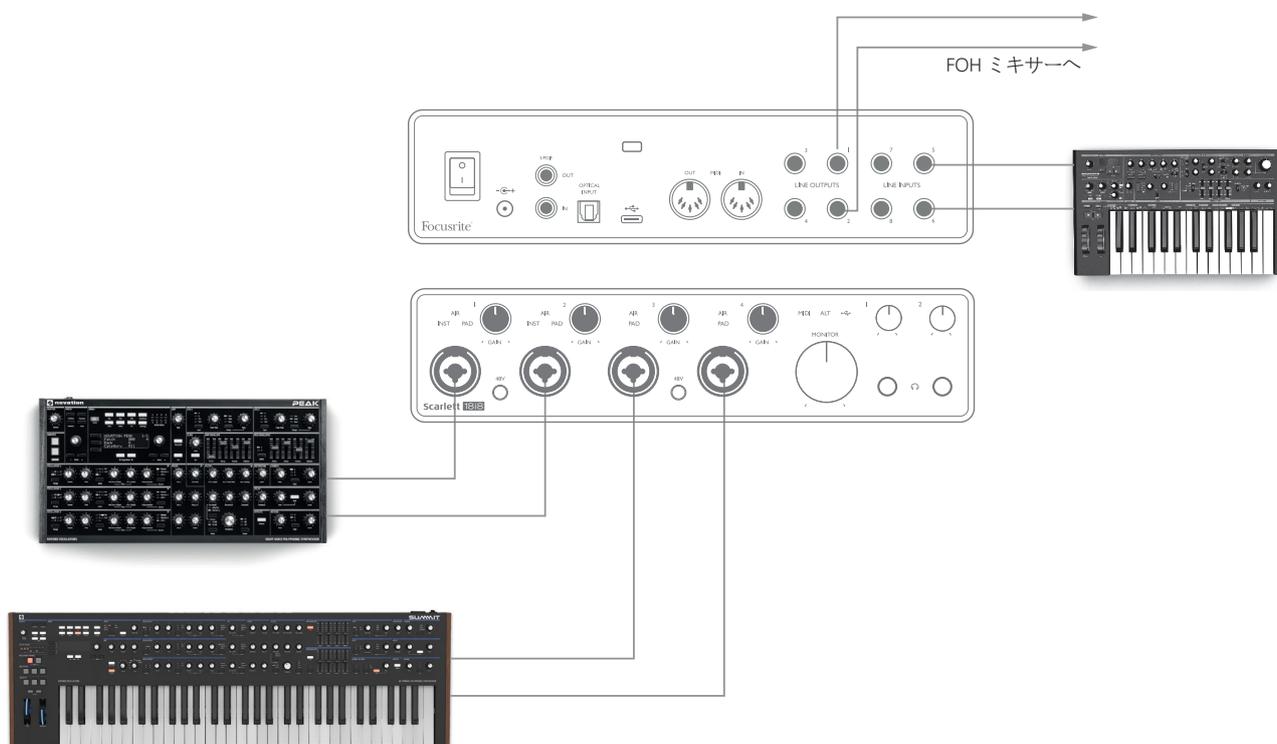
1 本の TOSLINK 光ケーブルを使用して Scarlett OctoPre の ADAT 出力を、Scarlett 18i8 の ADAT 入力に接続します。機器同士を同期するには、Scarlett OctoPre のクロックソースを **Internal** に設定し、Scarlett 18i8 のクロックソースを (Focusrite Control で) **ADAT** に設定します。

t ヒント: 2 つのデジタル機器を相互に接続する際には、必ず両方の機器を同じサンプルレートに設定してください。

ADAT ポートを使用して追加された入力は、Focusrite Control を使用してその他の入力と全く同じ方法でルーティングできます。追加された入力は、必要に応じて演奏者のヘッドフォンミックスの一部を形成できます。

Scarlett 18i8 のスタンドアロンミキサーとしての使用

Scarlett 18i8 には、Focusrite Control で設定したミックスの構成をハードウェア内に保存できる機能があります。この機能により、たとえば、コンピューターを使用して本装置をステージ上のキーボードのミキサーとして設定し、その設定を本装置にアップロードすることができます。キーボード装置の一部を構成するシンプルなローカルミキサーとして Scarlett 18i8 を使用して、複数のキーボードの全体的なミックスを制御できます。



ここで示されている例では、3 つのステレオキーボードが Scarlett 18i8 の入力部に接続され、モニター出力は、メイン PA システムに接続されています。演奏者は、3 つ目のキーボードに対する 2 つのキーボードのボリュームをフロントパネルから調整することができます。また、キーボードミックスの全体的なレベルを調整することも可能です。

FOCUSRITE CONTROL

Focusrite Control ソフトウェアを使用すると、柔軟なミキシングやすべての音声信号の物理オーディオ出力へのルーティングのほか、出力モニターレベルの制御も行うことができます。また、サンプルレートの選択やデジタル同期のオプションの選択も、Focusrite Control から行えます。

注記: Focusrite Control は、汎用性のある製品であるため、他の Focusrite ハードウェアインターフェイスとともに使用できます。お使いのコンピューターにインターフェイスを接続して Focusrite Control を起動すると、そのインターフェイスのモデル名が自動的に検出され、入出力数およびその他の機能に合うように設定されたソフトウェアがハードウェア上で使用できるようになります。

重要: オンライン登録を完了すると、Focusrite Control ユーザーガイドを別途ダウンロードできます。このガイドでは、Focusrite Control の使用法を、適用例とともに詳細に説明しています。

Focusrite Control を開くには、以下の手順に従います:



お使いのコンピューターに Focusrite Control をインストールすると、Dock またはデスクトップ上に FC アイコンが配置されます。このアイコンをクリックして Focusrite Control を起動します。

お使いの Scarlett インターフェイスが USB ケーブルでコンピューターに接続されていることが認識されると、Focusrite Control GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) が以下のように表示されます (Mac の場合)。



詳細については、Focusrite Control ユーザーガイドを参照してください。

以下の表に、Focusrite Control でプリセットオプション “Direct Routing” が選択されている場合のチャンネルルーティングを示します。22 ページの画面の画像を参照してください。

44.1 kHz および 48 kHz のサンプルレートの場合:

チャンネル 番号	入力	出力
1	Input 1	Output 1 + S/PDIF 1
2	Input 2	Output 2 + S/PDIF 2
3	Input 3	Output 3
4	Input 4	Output 4
5	Input 5	Headphones 1 L
6	Input 6	Headphones 1 R
7	Input 7	Headphones 2 L
8	Input 8	Headphones 2 R
9	S/PDIF 1	
10	S/PDIF 2	
11	Loopback 1	
12	Loopback 2	
13	ADAT 1	
14	ADAT 2	
15	ADAT 3	
16	ADAT 4	
17	ADAT 5	
18	ADAT 6	
19	ADAT 7	
20	ADAT 8	

88.2 kHz および 96 kHz のサンプルレートの場合:

チャンネル 番号	入力	出力
1	Input 1	Output 1 + S/PDIF 1
2	Input 2	Output 2 + S/PDIF 2
3	Input 3	Output 3
4	Input 4	Output 4
5	Input 5	Headphones 1 L
6	Input 6	Headphones 1 R
7	Input 7	Headphones 2 L
8	Input 8	Headphones 2 R
9	S/PDIF 1	
10	S/PDIF 2	
11	Loopback 1	
12	Loopback 2	
13	ADAT 1	
14	ADAT 2	
15	ADAT 3	
16	ADAT 4	

176.4 kHz および 192 kHz のサンプルレートの場合:

チャンネル 番号	入力	出力
1	Input 1	Output 1 + S/PDIF 1
2	Input 2	Output 2 + S/PDIF 2
3	Input 3	Output 3
4	Input 4	Output 4
5	Input 5	Headphones 1 L
6	Input 6	Headphones 1 R
7	Input 7	Headphones 2 L
8	Input 8	Headphones 2 R
9	S/PDIF 1	
10	S/PDIF 2	

仕様

性能仕様

注記: すべての性能数値は、AES17 の規定に従い測定しています (該当する場合)。

構成	
入力	18: アナログ (8)、ADAT (8)、S/PDIF (2)
出力	10: アナログ (4)、ヘッドフォン (2 x 2)、S/PDIF (2)
ミキサー	完全に割り当て可能な 20 イン/8 アウトソフトウェアミキサー (Focusrite Control)
デジタル性能	
対応サンプルレート	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、および192 kHz
マイク入力	
周波数特性	20 Hz ~ 20kHz ± 0.1dB
ダイナミックレンジ	111 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.0012% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
ノイズ EIN	-128 dB (A-特性周波数重み付き)
最大入力レベル	+9 dBu @最小ゲイン
ゲインレンジ	56 dB
ライン入力 1 ~ 4	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz ±0.1 dB
ダイナミックレンジ	110.5 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.002% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+22 dBu @最小ゲイン
ゲインレンジ	56 dB

楽器入力	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
ダイナミックレンジ	110 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.03% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+12.5 dBu @最小ゲイン
ゲインレンジ	56 dB
ライン入力 5 ~ 8	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
ダイナミックレンジ	110.5 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.002% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	18 dBu @最小ゲイン
ライン出力 1 ~ 4	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
ダイナミックレンジ	108.5 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.002% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大出力レベル (0 dBFS)	15.5 dBu (バランス)
ヘッドフォン出力	
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
ダイナミックレンジ	104 dB (A-特性周波数重み付き)
THD+N	< 0.002% (+6 dBu で測定、22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大出力レベル	+7 dBu

物理的特性と電気的特性

アナログ入力 1 & 2	
コネクタ	XLR コンボタイプ: フロントパネル上の Mic/Line/Inst
Mic/Line 切り替え	自動
ライン/楽器切り替え	Focusrite Control からソフトウェア経由で切り替え
ファンタム電源	入力 1 および 2 用の共有 48 V ファンタム電源スイッチ
アナログ入力 3 & 4	
コネクタ	XLR コンボタイプ: フロントパネル上の Mic/Line/
Mic/Line 切り替え	自動
ファンタム電源	入力 3 および 4 用の共有 48 V ファンタム電源スイッチ
アナログ入力 5 ~ 8	
コネクタ	リアパネル上のバランス 1/4 インチ TRS ジャック x 4
アナログ出力 1 ~ 8	
コネクタ (出力 1 ~ 4)	リアパネル上のバランス 1/4 インチ TRS ジャック x 4
ステレオヘッドフォン出力 (出力 5 ~ 8)	フロントパネル上の 1/4 インチ TRS ジャック x 2
メインモニター出力レベル調整つまみ ヘッドフォンレベル調整つまみ	フロントパネル上
その他の入出力	
オプティカル入力	TOSLINK オプティカルコネクタ。ADAT フォーマット 44.1/48 kHzで 8 チャンネルを、または 88.2/96 kHz で 4 チャンネルを伝送
S/PDIF I/O	フォノ (RCA) x 2 またはオプティカル入力 (Focusrite Control で選択)
USB	USB 2.0 Type C コネクタ x 1
MIDI I/O	5 ピン DIN ソケット x 2

フロントパネルのインジケータ	
USB 電源	緑色の LED
ゲイン Halo	3 色の LED リング (GAIN 調整つまみの付いた同心円状のリング)
ファンタム電源	赤色の LED x 2
楽器モード	赤色の LED x 2
AIR モード	黄色の LED x 4
Pad アクティブ	緑色の LED x 4
MIDI データ受信	緑色の LED
ALT スピーカーモード	緑色の LED
重量および寸法	
幅 x 高さ x 奥行	241 mm x 61 mm x 159.5 mm 9.49 インチ x 2.40 インチ x 6.28 インチ
重量	1.335 kg 2.94 lb

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関する質問がある場合には、Focusrite Help Centre サイト、<https://support.focusrite.com/> にアクセスしてください。このサイトでは多数のトラブルシューティング例を紹介しています。

著作権表示と法定通知

購入された Scarlett 18i8 には、製造上の欠陥に対する世界のどこでも有効な 2 年間の保証が付いています。この保証の完全な条項については、<https://focusrite.com/warranty> でご確認ください。Focusrite は登録商標であり、Scarlett 18i8 は、Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。

その他すべての商標および商品名は、それぞれの所有者の財産です。
2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 禁無断転載。